

平成28年度版『現代の書写』年間学習指導計画作成資料

■ 指導計画の作成と内容の取扱いについて

以下、中学校学習指導要領 第2章 第1節 国語（平成20年3月告示）抜粋

第3 指導計画の作成と内容の取扱い2

(2)〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(2)に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。

- ア 文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。
- イ 硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすること。
- ウ 書写の指導に配当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間20単位時間程度、第3学年では年間10単位時間程度とすること。

■ 学習指導要領の指導事項と、本資料での略称

以下、中学校学習指導要領 第2章 第1節 国語（平成20年3月告示）抜粋

第2 各学年の目標及び内容 2内容

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(2)

		略称
第1学年	(ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 (イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。	ア イ
第2学年	(ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。 (イ) 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。	ア イ
第3学年	(ア) 身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。	ア

■ 評価規準の観点と、本資料での略称

略称

[関] 関心・意欲・態度

[知] 書写についての知識・理解

[技] 書写についての技能

※学習指導書の「研究編」には、本資料に基づき、単元ごとに「評価計画(案)」を掲載し、評価の方法や、評価規準を実現していない生徒への手立ての例を示しています。

■ 巻頭

教材	配当 時数 (月)	指導 事項	重点目標	学習内容	評価規準
目次 この教科書のし くみ	適宜	—	書写学習の大まかな内容をつかみ、学習の流れを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・三年間で学習することの一覧と教科書の構成 ・毛筆と硬筆を使った学習の流れ 	<p>[関] 中学校書写の学習内容に関心をもっている。</p> <p>[知] この教科書の学習の流れを理解している。</p>
自分の文字や書き方をよりよくするために	適宜	—	書写の学び方や目標を理解し、自分の文字改善に必要な認識を得て、自分の文字をよくしているという意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した技能の生かし方 ・相手や目的、場面に応じた書き方 ・活字と手書き文字の違い 	<p>[関] 書写学習を通じて、自分の文字をよりよくしていこうとしている。</p> <p>[知] 書写の学び方や目標を理解している。</p>
望ましい姿勢と筆記具の持ち方	適宜	—	日常使用する代表的な筆記具の持ち方と書くときの姿勢、用具の扱い方などについて理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・書くときの姿勢 ・毛筆(大小)、鉛筆の持ち方 ・用具の置き方と扱い方 	<p>[関] 書くときの姿勢や筆記具の持ち方を振り返り、書きやすい姿勢や持ち方を見つけ出そうとしている。</p> <p>[知] 望ましい姿勢や筆記具の持ち方、扱い方を理解している。</p>

第 1 学年

教材	配当 時数 (月)	指導 事項	重点目標	学習内容	評価規準
1 楷書で書こう		単元目標：文字や文・文章の整え方を理解して書く。			
[1]文字の整え方を 確かめよう	3 (4～5 月)	ア	文字の整え方につ いて理解を深める。	・点画の形 ・文字の中心・画と 画の間隔・画の方 向 ・部分の組み立て方	[関]整った文字を書くことに興味をもって いる。 [知]整った文字を書くためには3つの留意 点があることを理解している。
[2]筆使いを確かめ よう		ア	基本点画と毛筆で 書くときのポイント を確かめ、楷書の 筆使いについて理 解を深める。	・横画・縦画・折れ・ 曲がり・そり・払い・点 ・毛筆で書くときの ポイント	[知]9つの点画と筆で書くときの3つのポ イントを理解している。 [技]9つの点画を、穂先の動きや筆圧に注意 し、腕全体を使って書いている。
[3]点画の組み立て 方を確かめよう		ア	点画の組み立て方 について理解を深 める。	・文字の中心・画と 画の間隔・画の方 向 →毛筆「春光」	[知]整った文字を書くためには、文字の中 心・画と画の間隔・画の方向を意識するとよ いことを理解している。 [技]文字の中心・画と画の間隔・画の方向を 意識して、毛筆・硬筆で書いている。
[4]部分の組み立て 方を確かめよう	3 (6月)	ア	漢字の部分と部分 のゆずれ合いにつ いて理解を深める。	・文字の組み立て (上下・左右・ 内外) →毛筆「若枝」	[知]整った文字を書くためには、文字の部分 と部分の組み立て方を意識する必要がある ことを理解している。 [技]文字の部分と部分の組み立て方を意識 して、毛筆・硬筆で書いている。
[5]学習のまとめ		ア	字形の整え方の全 体を確かめながら 書く。	・学習してきた知 識・技能の確認と 応用	[関]学習してきたことを生かして書こうと している。 [知]整った文字を書くための、点画の組み立 て方・部分の組み立て方・文字全体の形の整 え方を理解している。 [技]学習してきたことを確かめながら、硬筆 で書いている。
筆順の原則と意義		—	筆順の原則と意義 について理解を深 める。	・筆順の原則と意義	[関]筆順の意義を理解し、筆順に注意して書 こうとしている。 [知]字形を正しく整え、効率よく書くために 決まった筆順があることを理解し、3つの基 本的な原則とともに注意すべき筆順の字を 確かめている。
漢字のさまざまな書 き方・活字と手書き文 字		—	・楷書には許容され る書き方があるこ とを理解する。 ・筆写体には活字と 異なる特徴がある ことを理解する。	・楷書の許容字体例 →毛筆(「風月」「新 緑」楷書体と許容 の形の2種) ・筆写体と活字	[関]許容体の字形と通常の楷書体の字形の 違いに注意して書こうとしている。 [知]点画の部分の書き方の違いが書きやす さや書く速さに関係することを理解してい る。 [技]活字の字形が手書き文字と同じではな い場合もあることを書いて確かめている。
[6]仮名の字形と筆 使いを確かめよう	3 (7月)	ア	平仮名の字形と筆 使いについて理解 を深める。	・平仮名の字形と筆 使い ・片仮名 →毛筆 いろは歌	[関]ふだん書いている平仮名の字形を見直 そうとしている。 [知]仮名の外形・線の長さ・方向の捉え方 について理解している。 [技]仮名の字形と筆使いを意識して、小筆で 「いろは歌」を書いている。
平仮名の発生		—	平仮名の発生につ いての知識を得る。	・平仮名の発生	[関]いちばん身近な文字である平仮名の歴 史に関心をもっている。 [知]平仮名は日本独自の文字であることを 理解している。

[7]文や文章の整え方を確かめよう		ア	漢字と仮名を交えて書く方法について理解を深める。	・文字の大小・字間・行の中心 →毛筆「夏めく空」	[知]漢字と仮名を交えて書くときには、文字の大小・字間・行の中心・行間を意識するとよいことを理解している。 [技]文字の大小・字間・行の中心・行間を意識して、毛筆・硬筆で書いている。
[8]学習のまとめ	1 (9月)	ア	漢字と仮名の交え方を確かめながら書く。	・学習してきた知識・技能の確認と応用	[関]学習してきたことを生かして書こうとしている。 [知]整った文字群にするために、漢字と仮名の大きさのバランスを考え、字間と行の中心をそろえて書くことが大切であることを理解している。 [技]文字の大小・字間・行の中心を意識して、硬筆の縦書きと横書きで漢字仮名交じり文を書いている。
横書きの行のそろえ方・数字とアルファベットの書き方		一	横書きの行のそろえ方、数字とアルファベットの書き方についての知識を得る。	・横書きの行のそろえ方 ・数字とアルファベットの書き方	[関]横書きや数字・アルファベットを読みやすく書こうとしている。 [知]横書きの行のそろえ方・数字とアルファベットの書き方について理解している。
2 生活に生かそう		単元目標：今まで学習してきたことを生かして書く。			
行事の目標を書こう	1 (10月)	ア	学習してきた知識・技能を、場面に応じて適切に運用する。	・学習してきた知識・技能の確認と応用	[関]行事の目標を、これまでに学習してきた知識・技能を生かして、読みやすく書こうとしている。 [技]これまでに学習してきた知識・技能を生かして書いている。
新しい書体との出会い	1 (10月)	一	行書学習への関心・意欲を高める。	・新しい書体	[関]新しい書体(行書仮名交じり)で書かれた詩から受けた印象を交流しようとしている。 [知]これまで学習してきた書体(楷書と楷書に調和する仮名)とは異なる書体があり、これから学習していくことを理解している。
3 行書で書こう		単元目標：行書の基礎的な特徴を理解して書く。			
[1]行書の特徴を見つけよう		イ	行書の特徴について理解し、行書が速く読みやすく書くことに適した日常書体であることを理解する。	・行書学習の意義 ・行書のリズムの体験 ・行書の特徴	[関]速く読みやすく書けるという行書の特徴に関心をもっている。 [知]・行書が、速く読みやすく書くことに適した日常書体であることを理解している。 ・楷書との字形上の違いを理解している。
行書のいろいろな書き方		一	行書の書き方には幅があることを理解する。	・行書のいろいろな書き方	[関]行書にはさまざまな書き方があることに興味をもっている。 [知]行書の場合、同じ文字でも書く速さによっていろいろな形になることを理解している。
[2]連続・丸みを確かめながら書こう	2 (11月)	イ	行書の特徴のうち、基礎的な書き方「連続」「丸み(曲線化)」について理解する。	・筆脈の連続・直接連続 ・丸み(曲線化) →毛筆「名作」	[知]行書では、筆記具が最短距離を通るため、点画が連続したり丸みを帯びたりすることを理解している。 [技]行書の「筆脈の連続・直接連続」「丸み」を確かめながら、毛筆・硬筆で書いている。
[3]点画の変化を確かめながら書こう	2 (12~1月)	イ	行書の特徴のうち、基礎的な書き方「点画の変化」について理解する。	・終筆の形の変化 ・方向の変化 →毛筆「永久」	[知]行書では、次の画に速く向かうために、終筆の形が変わるという特徴をもつことを理解している。 [技]行書の点画の変化を確かめながら、毛筆と硬筆で書いている。

●書き初め 教科書 P. 85～88	2 (12～1 月)	アイ	学習してきた知識・技能を生かして書くとともに、「書き初め」という伝統的な書字活動について理解を深める。	・学習してきた知識・技能の確認と応用	[関]「書き初め」の文化的背景に関心をもっている。 [知]書き初め用紙に書くときの姿勢や書き進め方を理解している。 [技]学習してきた知識・技能を生かして、配列を意識して書いている。
[4]学習のまとめ	1 (2月)	イ	行書の特徴の全体を確かめながら書く。	・学習してきた知識・技能の確認と応用	[関]学習してきたことを生かして書こうとしている。 [知]行書の「丸み」「連続」「点画の変化」という特徴を理解している。 [技]学習してきたことを確かめながら、硬筆で書いている。
文化としての「書く」—年賀状と書き初め	適宜	—	年賀状や書き初めという伝統的な書字活動について知識を得る。	・年賀状 ・書き初め	[関]生活の中で生きている「書く」文化に関心をもっている。 [知]日本人の暮らしには、さまざまな書く文化が生きていることを理解している。
4 生活に生かそう	単元目標：今まで学習してきたことを生かして書く。				
本を紹介しよう	1 (3月)	アイ	学習してきた知識・技能を、場面に応じて適切に運用する。	・学習してきた知識・技能の確認と応用	[関]本の紹介という場面に応じて、これまでに学習してきた知識・技能を生かして、読みやすく書こうとしている。 [技]これまでに学習してきた知識・技能を生かして書いている。
書いたもので交流しよう	適宜	—	授業で書いたものについて、成果や課題を交流し、その意義を理解する。	・交流場面の例	[関]友達と交流することでより多くの気づきを得ようとしている。 [知]自分や友達の文字がどのように変化したか、学習してきた知識を踏まえて交流している。

■ 第 2 学年

教材	配当 時数 (月)	指導 事項	重点目標	学習内容	評価規準
5 行書を使いこなそう					
単元目標：行書の特徴を理解して、文字や文・文章を書く。					
[1]行書の特徴と筆 使いを確かめよう	3 (4~5 月)	ア	学習してきた行書 の特徴と筆使いに ついて確かめる。	・丸み(曲線化) ・筆脈の連続・直接 連続 ・点画の変化 →毛筆「再会」	[関]行書の特徴について、第1学年で学習し たことを思い出し確かめようとしている。 [知]第1学年で学習した行書の特徴「丸み」 「筆脈の連続・直接連続」「点画の変化」と 筆使いを理解している。 [技]行書の特徴と筆使いを意識して、毛筆・ 硬筆で書いている。
[2]省略・筆順の変 化を確かめながら 書こう	2 (6月)	ア	行書の特徴のうち、 「点画の省略」「筆 順の変化」について 理解する。	・点画の省略 ・筆順の変化 →毛筆「雪花」	[知]行書では、速く書くために点画を省略し たり筆順を変えたりすることがあることを 理解している。 [技]行書の「点画の省略」「筆順の変化」を 確かめながら、毛筆・硬筆で書いている。
[3]学習のまとめ	1 (6月)	ア	行書の特徴の全体 を確かめながら書 く。	・学習してきた知 識・技能の確認と 応用	[関]学習してきたことを生かして書こうと している。 [知]行書の5つの特徴と、行書にはさまざま な字形があることを理解している。 [技]学習してきたことを確かめながら、硬筆 で書いている。
[4]行書に調和する 仮名の特徴を見つ けよう	3 (7月)	ア	行書に調和する仮 名の特徴を理解す る。	・行書に調和する仮 名の特徴(点画の 連続・変化・省略) →毛筆 平仮名五十 音	[知]行書に調和する仮名には、行書と同じよ うな特徴があることを理解している。 [技]行書に調和する仮名の特徴を意識して、 硬筆・毛筆で書いている。
[5]文や文章の整え 方を確かめよう	2 (9~10 月)	ア	漢字(行書)と仮名 を交えて書く方法 について理解を深 める。	・文字の大小・字 間・行の中心・行 間 →毛筆「自然を楽し む」	[知]行書と行書に調和する仮名を交えて書 くときに、文字の大小・字間・行の中心・行 間を意識するとよいことを理解している。 [技]文字の大小・字間・行の中心・行間を意 識して、毛筆・硬筆で書いている。
[6]学習のまとめ	1 (10月)	ア	行書と仮名の調和 のとり方を、確かめ ながら書く。	・学習してきた知 識・技能の確認と 応用	[関]学習してきたことを生かして書こうと している。 [知]スペースに合わせて整った文字群を書 くために、文字の大小・字間・行の中心・行 間を意識し、仮名を行書に調和させて書く とよいことを理解している。 [技]学習してきたことを確かめながら、硬筆 で書いている。
文章全体を速く書く ために		一	文字を速く書くた めには、文字から文 字へとつなげる意 識が大切であるこ とを理解する。	・文字間のつながり	[関]文字から文字へのつながりについて関 心をもっている。 [知]文章全体を速く読みやすく書くために、 文字から文字へのつながりを意識するこ とが大切であることを理解している。
6 生活に生かさう					
単元目標：今まで学習してきたことを生かして書く。					
手紙を書こう	2 (11月)	ア	学習してきた知 識・技能を、場面に 応じて適切に運用 する。	・学習してきた知 識・技能の確認と 応用	[関]学習してきた知識・技能を生かして、手 紙の書き方のきまりを意識しながら読みや すく書こうとしている。 [知]便箋や封筒を書くときのきまりを理解 している。 [技]これまでに学習してきた知識・技能を生 かして書いている。

●書き初め 教科書 P. 109～112	2 (12 月)	アイ	学習してきた知識・技能を生かして書くとともに、「書き初め」という伝統的な書字活動について理解を深める。	・学習してきた知識・技能の確認と応用	[関]書きたい課題文字を選び、これまでの書写学習の知識・技能を生かして書こうとしている。 [知]書き初め用紙に書くときの姿勢や書き進め方とともに、課題文字の特徴を理解している。 [技]学習してきた技能を生かして、配列を意識して書いている。
7 書体を使い分けよう		単元目標：場面に応じて、楷書か行書を選択して書く。			
[1]生活の場面と書体について考えよう	2 (1 月)	イ	文字を書く場面と使用する書体には関係があることを理解する。	・場面にふさわしい書体の選択	[関]読み手・目的・状況にふさわしい書体を選択して書こうとしている。 [知]読み手・目的・状況を考えて書体を選択するとよいことを理解している。
[2]学習のまとめ		イ	場面に応じた書体の使い分けの視点から、身のまわりにある書字例を収集する。	・学習してきた知識・技能の確認と応用	[関]身のまわりにある書字例について、なぜその書体で書かれているのかに関心をもっている。 [知]身のまわりにある書字例は、読み手・目的・状況を考えて選択されていることを理解している。
8 生活に生かそう		単元目標：中学校 2 年間の書写の学習を生かして書く。			
座右の銘を書こう	2 (2～3 月)	アイ	学習してきた知識・技能を適切に運用して、座右の銘を書く。	・学習してきた知識・技能の確認と応用	[関]学習してきた知識・技能を生かして、自分を励ます座右の銘を書こうとしている。 [知]座右の銘のことばを効果的に表すために、用紙や筆記具、書体や文字の大きさ、配列を考えるとよいことを理解している。 [技]これまでに学習してきた知識・技能を生かして書いている。
(発展)書の名手たち	適宜	—	先人の書跡やエピソードをとおして、文字の美しさを味わう文化に触れる。	・先人の書跡とエピソード	[関]書かれた文字の美しさを味わうという古くからの文化に関心をもっている。 [知]中国の欧陽詢、日本の空海や小野道風らの書いたものが、「書」芸術として味わわれてきたことを理解している。

■ 第 3 学年

教材	配当 時数 (月)	指導 事項	重点目標	学習内容	評価規準
9 効果的に書こう		単元目標：身のまわりの文字に関心を持ち、効果的に書く。			
[1]身のまわりの文字の工夫を見つけよう	5 (4~10 月)	ア	身のまわりの文字の使われ方に関心を持ち、その工夫や効果について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 文字の使い方の工夫 (文字の種類、大きさ、書き方) 目的と効果 	[関]身のまわりの多様な文字と、それらに表現されている工夫に関心をもっている。 [知]身のまわりの文字は、その目的に応じて、効果を発揮するように工夫されていることを理解している。
[2]学習のまとめ		ア	学習してきたことを生かして、より効果的に文字を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 学習してきた知識・技能の確認と応用 	[関]より効果的に文字を書こうとしている。 [知]目的に応じた文字の使い方やレイアウトの工夫とその効果を理解している。 [技]ポスターの目的と期待する効果を考えて、文字の使い方やレイアウトを工夫して書いている。
●書き初め 教科書 P. 113~116	2 (11~12 月)	ア	学習してきた知識・技能を生かして書くとともに、「書き初め」という伝統的な書字活動について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 学習してきた知識・技能の確認と応用 	[関]書きたい課題文字や筆記具を決め、これまでの書写学習の知識・技能を意識して書こうとしている。 [知]書き初め用紙に書くときの姿勢や書き進め方とともに、課題文字の特徴を理解している。 [技]学習してきた知識・技能を生かして、自分で選んだ筆記具で書いている。
10 生活に生かそう		単元目標：中学校 3 年間の書写の学習を生かして書く。			
卒業記念冊子を作ろう	3 (11~3 月)	ア	学習してきた知識・技能を適切に運用して、卒業記念冊子を作る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習してきた知識・技能の確認と応用 	[関]3年間の総まとめとして、学んだことを生かして書こうとしている。 [技]書体、用紙・用具の選択、文字の配列などを適切にしている。
3年間で学んだ書写技能		一	学習してきた書写技能を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 楷書・行書、文字の大きさ・配列 	[関]自分自身の3年間の書写の学びを振り返り、学んできたことを確かめようとしている。 [知]3年間で学習してきたことを整理している。

資料編

教材	配当 時数 (月)	指導 事項	重点目標	学習内容	評価規準
日常の書式① 便箋 と封筒の書き方・時 候の挨拶など	適宜	—	便箋と封筒の書き 方や時候の挨拶の きまりについて理 解を深める。	・縦書き・横書きの 便箋・封筒の書き 方 ・時候の挨拶・頭語 と結語	[知]便箋や封筒の文字を書く位置や、文章の 構成の仕方、頭語・結語の適切な組み合わせ、 時候の挨拶の意義を理解している。
日常の書式② 荷物 の送り状・のし袋・願 書の書き方	適宜	—	身のまわりの書式 について理解を深 める。	・荷物の送り状・の し袋・願書の書き 方	[知]荷物の送り状・のし袋・願書の書き方を 理解している。
日常の書式③ 掲示 物の書き方	適宜	—	掲示物のレイアウト の工夫の仕方につ いて理解を深める。	・掲示物のレイアウト の工夫の仕方	[知]無地の用紙へのレイアウトの工夫の仕 方を理解している。
日常の書式④ ノー ト・原稿用紙の書き 方	適宜	—	ノートや原稿用紙 の書き方について 理解を深める。	・ノートのとり方、 学習内容の整理 の仕方 ・原稿用紙の書き方	[知]ノートに書く文字の大きさや余白の生 かし方、原稿用紙に書くときのきまりなど について理解している。
文字の変遷	適宜	—	誕生から現在まで の漢字と仮名の変 遷について理解を 深める。	・漢字の主な成り立 ち ・漢字の歴史 ・仮名の誕生	[知]漢字が甲骨文・金文・小篆・隸書と発展 し、草書・行書・楷書が生まれ、日本では漢 字をもとに平仮名と片仮名が誕生したこ とを理解している。
文房四宝	適宜	—	毛筆の用具（筆・ 紙・墨・硯）およ び現代の筆記具に ついて理解を深める。	・筆・紙・墨・硯の 製造工程 ・進化する筆記具	[関]毛筆の用具や現代の筆記具について知 ることをとおして、筆記具や書くことを大 切にしようとしている。 [知]毛筆の用具が「文房四宝」と呼ばれて大 切にされてきたことを理解している。
楷書・行書一覧表	適宜	—	小学校・中学校で学 習する漢字の楷書 と行書を理解する。	・小学校で学習した 漢字 楷書・行書 ・中学校で学習する 漢字 楷書・行書	[関]書こうとする漢字の字形を確かめるた めに楷書・行書一覧表を活用しようとして いる。